

小学校 外国語教育の充実

文部科学省初等中等教育局
教育課程課・国際教育課外国語教育推進室 教科調査官
国立教育政策研究所教育課程研究センター 教育課程調査官

直山 木綿子 氏



教育随想



月報 岡崎の教育

平成25年11月1日

11月号

発行・編集
岡崎市教育委員会

今月の紙面

教育随想	1
<small>文部科学省初等中等教育局 教育課程課・国際教育課外国語教育 推進室 教科調査官 国立教育政策研究所教育課程研究 センター 教育課程調査官 直山木綿子氏</small>	
この人に聞く	2
酒造家	柴田 秀和氏
羅針盤	2
音楽科指導員	細井 鶴貴
ふれあい	3
常磐中	榎原万由美
特集	4
<small>多彩な広がりを見せる 小学校の修学旅行</small>	
お知らせ	6
フォト・ヒストリー	8
<small>総体に向けての応援練習 (昭和59年)</small>	
この本を	8

「今の英語教育の流れについて、オンラインピック招致も含め、今後ますます英語教育の充実が求められると理解しています。でも、どの生徒もが英語ができないといけないのでしょうか。」

これは、ある研修会に参加された先生からいただいた質問です。小学校に外国語活動が導入される前の二十一年度には、「どうして小学校で外国語活動をするのか。どうして学級担任が外国語活動の指導をするのか」という質問を小学校教員からいただいたものでした。ところが、今回の質問は、中学校英語科教員の方からです。中学校英語科教員の方からこのような質問をいただくのは、私にはとても新鮮であり、中・高等学校での英語学習が当然である今、なぜ英語学習をするのかを改めて考える必要があると思いました。

昨年六月にグローバル人材育成推進会議「審議のまとめ」に示されたグローバル人材の概念の三要素の一つに、語学力・コミュニケーション能力が挙げられています。グローバル化社会では、外国の人と交流したり、仕事をしたりすることが当たり前となります。そのため、とりわけ世界共通語と言われている英語力が求められるわけですが、それに加えて私は、外国語の力を付けることで、外国語と母語とを比較し、今まで気付かなかった母語の素晴らしさや特色に気づき、母語の力をより付ける

ことができるとともに、「言葉」で人とやり取りする大切さ、楽しさを感じてほしいと思っています。人とやり取りをする中で、自分の存在への確信をもてると思えるからです。子供たちに自分が生まれてきたこと、存在に自信をもってほしいと願っています。また、母語に加えて、もう一つ言語の力(当然母語の力までではないとしても)を付けることで、豊かな思考、様々なものの見方ができるようにになると考えています。

(なおやま ゆうこ)





故郷への愛情を胸に

酒造家

柴田 秀和 氏

うす暗い酒蔵に一步入ると、ほのかに甘い日本酒の香りに包まれた。江戸時代後期、天保元年創業という保久町の酒造場は、濃い緑の山々に囲まれるように建っていた。

「地元の米と水、気候などの環境がそろっていたからこそ、ここで酒造りが始まったのでしょう。特に、水ですね。うちの住所に、神水という字名が入っています。いい水がわくことにちなんだ地名です。水が軟らかいのですよ。そうすると、酒の味がまろやかになる。」

穏やかな口調で語る柴田さんは、柴田酒造場の八代目。

「幼いころから、酒蔵が遊び場でしたし、働いている杜氏さんたちが元気で楽しそうでした。うまい酒ができたときは、本当にうれしうだったことを覚えています。」

だからこそ、先代である父親から



将来のことを問われたときには、自然な気持ちで家業を継ごうと思ったという。大学で経営について学んだ後、酒造りの本場兵庫県へ修業に出た。さらにその後、国税庁醸造試験場で、酒の香りなどの醸造学の研究や、酒造りの実技の研鑽も積んだ。

「修業に出ることも、試験場に行くことも、自分で決めました。親が以前、従業員に『他人の飯も食べた方がいい』と言っていたことが心に残っていて、修行に行こうと思えました。試験場は、先々代の祖父が行っていたということもあって、ぜひ自分も、と思ったのです。」

酒造りを極めようと、努力を惜しまず進んできた柴田さん。それでもなお、酒造りは難しいという。

「日本酒は、米と水と麴です。同じように仕込んでも、その年の米の性質などで出来栄が変わります。それを見極めて良い酒にするのは、人の感覚しかないですから。真冬の夜中、一時間おきに様子を見に行くような苦労をしても、できると、

辛過ぎたり、逆に甘過ぎてしつこい味だったりすることもあります。」

だからこそ、失敗や困難を乗り越えて本場に自分が思うような酒ができたときには、酒造りの面白さ、やりがいを感じるのだという。

「酒造りは、子育てと似ていると思いますよ。手をかけて、気持ちをこめた分だけ、いい酒になります。手間暇を惜しんで、少しでも手を抜いてしまったらだめです。苦労しても、初めのうちは思うようにならないこともある。それでも手をかける。そんな酒が、後でいい酒になることも多いのですよ。欠点がある酒同士でも、うまくブレンドすることで欠点を打ち消し合せて、うまい酒になることもありますよ。」

娘が九代目を継ぐと言ったと微笑む柴田さんに、今後の夢を聞いた。

「今、うちは一八四年続いていますから、もうすぐ二〇〇年になります。ちょうど娘が継いだころかと思えます。その節目のときには、酒造業が活気づくようなイベントがしたいですね。食中酒として、また懇親の酒としての日本酒の文化を絶やさないために、若い人が魅力を感じる世界にしていきたいのです。」

家族や故郷への愛情を胸に、誇りをもって家業を守る柴田さん。神水の酒造場からは、今後も香り高い日本酒が生まれ続けることだろう。

氏名 しばた ひでかず
生年月日 昭和三十五年七月十五日
住所 岡崎市保久町字神水



「こんなふうに歌いたい」と思う子に

音楽科指導員

細井 鶴貴

「このソレントへ、帰れよお。」

一人で最後まで歌ったA子は、笑みを浮かべて静かに座る。誰からもなく拍手が湧く。それが大きな意味のあるものであったことを、そのときは私だけが知らなかった。

中学三年生の歌唱の授業。子供たちは歌詞に込められた思いを感じ取りながら、三・四人のグループごとに歌い方を工夫していく。

「転調するところはもっと明るく歌おうよ」と話し合いの口火を切るB子。「どんな感じだ」とC男が問うと、「こんな感じかなあ」とB子は言い、その小節を歌う。それを聴きながらA子を含めた他の二人は真似をして二回ほど歌ってみる。少し考えてB子は、「もっと前歯を見せて歌うと明るくなるよ」と、テレビの方を何度指さして言う。先ほど鑑賞した独



辛いことが

思い出になるまで

常磐中 神原万由美

「A男、この本読むか。」

「ありがとう。読むから貸して。」

ある日、A男に会いに保健室にやってきたB男が言った。A男が笑顔で話しているのを見て驚いた。内気なA男にとって、教室に入るのはいはドルが高い分、保健室での何気ない友達との会話が大切だと、養護教諭として実感した瞬間だった。

A男は、体育大会は、相談室から見学すると決めていた。ところが、当日の昼休み、クラスの仲間がほぼ全員で呼びに来た。そこで、行かないと言いつ張っていたA男に、B男が言った。

「綱引きの人数がまだ足りないし、来てよ、A男。」

「え。でも、力ないし。」

「大丈夫、大丈夫。」

B男は、嫌がるA男を半ば強引に

運動場に連れ出してしまったのだ。最初は嫌な顔をしていたA男だが、運動場に出ていくと、みんなと一緒に綱引きをした。そんなA男の姿を見ていた母親は、涙を流して喜んだ。

A男は一年から登校を渋り始め、二年では朝から登校できたのは二日だけだった。二年の自然教室への参加を目標にし、担任は様々な働きかけをした。クラスの生徒が休日にA男との関わりを増やしていくことも試みたが参加はできなかった。

二年、三年と同じ担任になったこともあり、私は連携がよくとれた。週一回のスクールカウンセラーの相談日に登校する目標を立て、その都度、私もA男に会うこととした。とても物静かで、声をかけてくれるクラスの生徒にうなずくだけのA男との関係づくりは大変だった。それでも、さまざまな生徒が相談室でA男と話をし、担任と保護者が根気よく連携をとったことで、修学旅行に参加することができた。私は自分のことのようにうれしかった。少し自信がついたので、それまでは教室から離れた相談室を特別に設けていたが、保健室横の相談室に入るようにした。私も話をする時間ができ、A男は少しずつ心を開いていった。担任が進路の目標をタイミング良く提示したこともあって、二学期からは、ほぼ毎日、保健室を経由して相談室で

勉強できるようになっていた。

そして、あの感動の体育大会綱引きの日を迎えたのだ。あの日をきっかけに、A男は、少しずつクラスへと気持ち向き、少人数の授業に参加し始め、次第に教室で過ごす時間が増えていった。

その頃開催した学校保健委員会の感想に「これからは、嫌なことがあっても、何年か後には思い出になるので、頑張つて乗り切れたらいい」と書いたA男。中学校生活は辛いものだったかもしれないが、自力で乗り越えていくことができると思え、とてもうれしかった。

A男は、現在普通科高校に進学して頑張っている。卒業式の日「ありがとう」とメッセージをくれたA男のはにかんだ笑顔が忘れられない。



唱の映像を思い出したようだ。明るく転調した感じを出すためには表情や音色を変えようとよいことを、B子は自ら映像より学び取っていた。

A子が「明るい音色ってこうかな」と小さな声で歌うと「そう、明るい音色になったよ。今の感じで合わせよう」と四人で歌い出す。A子は向かい合うB子の表情を見ながら歌う。歌いながら、B子は笑顔で首を縦に振っている。転調した部分が明るく響いてきた。B子の学びが基となり、グループ内のコミュニケーションが活性化した。そこには、子供同士が学びを共有し、課題を解決していくために高め合う姿があった。

D教諭の仕掛けは見事であった。視聴する視点が明確なDVD。A子とB子と同じ班にする配慮。自ら高め合えるような学習課題や一人で歌う場の設定。これらの手立てによって、子供たちは、「こんなふうに歌いたい」という思いをもったのである。授業の後半に挙手をして歌ったA子。不登校気味で、保健室にいることが多いと、後に知った。A子は、関わり合いによって自信をつけ、心を動かし、行動に至った。「一人で歌って聴いてもらいたい」という思いが育まれたため、見せた姿であった。

自分の思いをもち、自ら表現しようとして動き出す姿は、輝きを放つ。



▲ 狂言鑑賞（六ツ美西部小） 狂言師といっしょに発声練習

これまで、小学校の修学旅行といえば、新幹線で京都へ行き、観光バスを使って集団で観光地を巡ることがほとんどであった。しかし、新幹線利用の条件が緩和された平成二十四年度からは、各校独自で行程を組みやすくなった。特に大きく変わった点は、下に示したように、バス利用校が増えたことである。

また、昨年度は、奈良での宿泊を選んだ学校が五校あった。バス利用に加え、奈良を拠点とすることで、奈良市街周辺や飛鳥方面の寺院や史跡の見学もしやすくなった。往路、奈良へ行く途中の、伊賀を見学地に加えた学校もあった。

体験活動も、以前からよく行われていた清水焼の絵付け、座禅体験といったものに加え、和本作りや狂言鑑賞など、特色のある活動が新たに増えた。体験を通して、京都・奈良の歴史や伝統に触れることは大きな意義があると思われる。

更に、子供たちが自分たちで見学先を選び、自分たちの責任で行動する班別研修も広がりを見せている。定番の奈良公園内だけでなく、京都市内をタクシーや地下鉄・市バスを使って回る班別研修を行う学校も増えた。

「少しでも充実した修学旅行になるように」という教師の思いと「自分たちで主体的に行動を計画していこう」という子供の思いが合わさり、小学校の修学旅行は、一層魅力を増している。子供たちの心に一生深く残る思い出となるであろう。

京都・奈良までの交通手段

・往復バス	25校
・往復新幹線	19校
・往路新幹線、復路バス	3校

京都での移動手段

・観光バス	38校
・観光タクシーで京都班別研修	7校
・市バス、地下鉄を使って京都班別研修	2校

バス利用の良い点と問題点

◎バス利用の良い点（主な意見）

- ・大きな荷物を持ち運ぶ必要がない。
- ・旅行費用が往復新幹線利用に比べてかなり安くなった。
- ・列車の待ち時間分、見学地を多くできる。
- ・忘れ物を確認することも少なく、担任の負担が減った。

△バス利用の問題点（主な意見）

- ・渋滞した場合、時間の予測がつかない。
- ・車酔いする子にはずっとつらい移動であった。
- ・新幹線にのる経験ができなかったことについて、保護者から不満の声があった。
- ・長時間座っていたため、苦痛を感じた子もいた。

平成24年度修学旅行実施アンケート結果より

魅力的な 体験学習

平成24年度 人気の体験学習	
1 漆器加飾体験	10校
2 清水焼絵付け	8校
3 座禅	6校



▲ 西大寺大茶盛体験（羽根小）
巨大な茶碗で点てた抹茶を参加者で回し飲んだ。



文化を体感する

▲ 蹴鞠体験（福岡小）
飛鳥、石舞台古墳前で、昔の衣装を着て蹴鞠に挑戦した。

伝統の技に触れる



▲ 表紙型絵付（根石小）
作った和本は帰ってから思い出を書き込んだり、写真を貼ったりして自分だけの修学旅行の本として完成させた。



▲ 和本の四つ目綴じ製本（根石小）



▲ 漆器加飾体験（大樹寺小）
職人さんから京漆器の話を聞いた後、漆器に絵柄の彩色をした。



▲ 京都班別研修（連尺小）
公共交通機関を利用した京都班別研修を行った。



自分たちで計画、行動する

班で計画を立て、サイクリングで飛鳥を見学しました。初めは、不安で道にも迷いましたが、何とか自分たちの力で見学できたことにごく自信になりました。自転車をこぎながら受けた飛鳥の風は、とても涼しくて気持ちよかったです。
(平成23年度 矢作東小 卒業生 酒井 睦)

子供たちは、事前に計画してアドバイスを受けた京都の見学コースを現地のシルバーガイドさんといっしょに回りました。当日朝の混雑の様子などから、回る順を変更したり、地下鉄を利用したりして効率よく見学を行うことができました。昼食は、京都らしい食べ物を食べ、京都を実感しました。ガイドさんとも仲良くなり、子供たちは、旅館に大満足の顔で戻ってきました。 (連尺小 教諭 杉浦 有子)



▲ 寺・遺跡巡り（矢作東小）
飛鳥の寺や遺跡を自転車を使って見学した。

お知らせ

● 教育最新情報

○ 全国学力・学習状況調査

四月に行われた、全国学力・学習状況調査の岡崎市の結果が分析された。

1 調査分析概要

(1) 全体の様子

岡崎市内の小・中学校ともに、国語、算数・数学の「知識」「活用」に関する問題において、全国及び県の平均正答率を有意に上回っている。

小学校においては、特に算数の「活用」に関する問題が、全国及び県の平均正答率を大きく上回っており、「たいへんよくできている」状況である。また、中学校においては、国語の「活用」、数学の「知識」及び「活用」に関する問題で「たいへんよくできている」状況である。

(2) 小中学校別各教科「知識」「活用」に関する問題の様子 (左表)



〈小学校6年生〉

科	主として「知識」に関する問題	主として「活用」に関する問題
国語	できている ・ 広告などのメディアを読み、編集の特徴を捉える力に優れている。 ・ ことわざの意味や使い方を正しく理解できていない児童が多い。	できている ・ 話し手の意図を捉え、効果的な助言をする力に優れている。 ・ 本や文章を推薦する二つの文章を読み比べ、推薦する対象や理由を捉える力に優れている。
算数	よくできている ・ 割合の意味をよく理解し、基準量と比較量の大きさの関係を捉える力に優れている。 ・ 図形の特徴をよく理解し、面積を求める力に優れている。 ・ 少数や分数を使った計算をする力がやや弱い。	たいへんよくできている ・ 生活の中の情報について算数を利用して分類整理し、適切に処理したり選択したりする力に優れている。 ・ 単位量当たりの大きさに着目し、二つの数量の関係を言葉や式を用いて記述する力に優れている。
学習状況	「朝食を毎日食べる」「自分で計画を立てて勉強する」「毎日同じ時刻に起きる、寝る」「学校のきまりを守っている」「携帯電話やスマートフォンの使い方について家族との約束を守っている」など、規範意識をもち、規則正しい生活を送っている児童ほど今回の調査で高い正答率を得ている傾向にある。テレビゲームをする時間が2時間未満の児童の正答率は、2時間以上の児童に比べ、国語・算数の問題において6～9ポイント高い。 また、携帯電話やスマートフォンの所有率は、平成21年度に比べ、約12ポイント増加している。	

〈中学校3年生〉

科	主として「知識」に関する問題	主として「活用」に関する問題
国語	よくできている ・ 文章の表現の特徴を捉えたり、目的に応じて必要な情報を読み取ったりする力に優れている。 ・ グラフから文章を書く際、伝えたい事柄を明確にしたり、段落の役割を考えて構成したりする力に優れている。 ・ 比喩や反復などの表現技法について理解を深めている。	たいへんよくできている ・ 説明的な文章を読んで、段落相互の関係、文章の展開、図と文章の関係を捉える力に優れている。また、文学的な文章を読んで、表現の効果を考える力に優れている。 ・ 複数の資料を関連させて、情報を整理する力に優れている。
数学	たいへんよくできている ・ 分数の乗法の計算や正の数と負の数の四則計算をする力に優れている。 ・ 文字式や方程式の意味を捉え、数量の関係を式に表したり、計算したりする力に優れている。 ・ 平面図形の平行線や角の性質、多角形の外角の意味を理解し、角度を求める力に優れている。	たいへんよくできている ・ 事象を数学的に考察する場面で、数学的に表現された結果を事象に即して解釈したり、事柄が成り立つ理由を筋道立てて説明したりする力に優れている。 ・ 具体的な事象の中の数量関係から、一次関数について理解し、関数関係を見出し、表現したり、考察したりする力に優れている。
学習状況	「生活習慣が確立している」「規範意識がある」生徒ほど、今回の調査で高い正答率を得ている傾向にある。具体的には、「朝食を毎日食べる」生徒の正答率は、「食べない」生徒に比べ、国語・数学の問題において6～9ポイント高い。また、「毎日同じ時刻に寝る」「自分で計画を立てて勉強する」等も同様である。「学校の規則を守る」生徒の正答率は、「守らない」と回答した生徒より、8～15ポイント高い。 携帯電話やスマートフォンの所有率は、平成21年度に比べあまり変化はない。ただし、全国の所有率と比べると、約5ポイント低い。	

2 今後の岡崎市教育委員会の指導改善等の取組み
・ 国語や算数・数学における基礎基本となる「知識」の力を一層伸ばしていくために、授業や朝・帰りの学習等を充実させるよう指導・助言する。
・ 国語や算数・数学における「活用」の力を一層伸ばして

いくために、今回の調査の詳細な分析を行い、その内容・結果を授業改善に生かすことができるように、各学校に周知する。
・ 今回の調査結果を基に、各学校において、日々の授業改善の成果と課題を明らかにし、新たな授業改善の具体的な施策を立て、早急に

3 留意点
・ この調査で測定した学力は特定の一部分である。
・ 学校では、成果と課題を把握し、授業改善に努める。
○ 岡崎市教育研究論文募集
岡崎市教育研究論文を次のとおり募集する。
【趣旨】
岡崎市立幼稚園、小・中学校教職員の日頃の教育実践及び教育研究の成果を広く募り、教職員の研修と資質向上及び学校教育の健全な発展を図るとともにその努力を顕彰する。
【部門】
① 個人研究の部 (第一部門)
② 共同研究の部 (第二部門)
【論文の体裁】
① 字数 一八二〇〇字以内 (資料も本文範囲内に入れる。)
② 用紙・様式 A4用紙
四十字×三十五行

十三枚以内(余白天地左右二十ミリメートル以上 文字は十二ポイント以上) 余白への資料添付は禁止

【留意事項】

- ・体裁が違うものは審査の対象外となるので注意する。
・未発表のものであること(ただし、継続実践研究は可)
・添付資料は、判読しにくいほど縮小しない。
・個人に関する情報を論文中に掲載する場合は、個人が識別されないよう留意する。

【提出期限】

平成二十五年十一月二十六日(火)
○岡崎市教育委員

- 平成二十五年十月一日付けで、岡崎市教育委員が次のようになった。
委員長 土屋 武志
委員長職務代理者 小出 義信
委員 櫻井 敬子
委員 福應 謙一
委員(教育長) 高橋 淳

●ハートピアだよ

英知を集めて

ハートピア岡崎の主な役割は、通所生に対して、個別で学習を手助けしたり、体力を

向上させたりすることで、学校生活への適応力を高め、学校復帰できるように支援することです。

この活動を支えているのが、本所における様々な協議活動です。毎日の「朝会」では、前日の子供たちの様子を伝え合い、気がかりな通所生の課題を共有し、対応を考えます。毎週木曜日に行う「木曜会」では、一週間の通所生たちの様子を担当指導主事やそよかぜ相談室長、教育相談コーディネーター、臨床心理士に伝え、今後の支援について一緒に考えています。

さらに、毎月一回、「ハートピア会議」を開き、通所生の情報交換を行い、対応方法へのアドバイスや当該児童生徒に関わる今後の見通し等について助言をいただいています。これらの協議活動は、ハートピア指導員の教育相談能力や子供理解能力を高めることにつながっています。また、日々の子供への有効な関わり方を探ることも役立てています。

Aは、これまでハートピアへは、月に一、二回通所していま

した。Aへの支援を前述の協議の中で検討し、対応を話し合うことを通して、ハートピアと担任との連携が深まりました。そして、担任の熱心な働きかけで、Aは体育大会に参加することができました。個に関わる英知の結集が、子供を変えていくという成果につながることを実感しています。



みんなで芋掘り

●表彰

- ◆第17回アジアユースボウリング選手権大会
優勝 南中三年 高平沙也斗
男子四人チーム戦
男子シングルス戦
六位 南中三年 高平沙也斗

- 男子マスターズ戦
六位 南中三年 高平沙也斗
男子オールエベント
六位 南中三年 高平沙也斗

- ◆平成25年度全日本中学校総合体育大会
バレーボール女子
優秀選手賞
南中三年 加藤珠希

- ◆第36回全国JOC夏季水泳競技大会
十歳以下男子
二〇〇M個人メドレー
優勝 六善部小五年 仲平千尋
五十M自由形
二位 六善部小五年 仲平千尋
五十M平泳
二位 六善部小五年 仲平千尋

- ◆JOC第6回全国ジュニアテコンドー選手権大会
中学生男子55kg超級
三位 矢作中三年 増田幸朗

- ◆第10回全国小学生学年別柔道大会
小学校六年男子50kg級
優勝 本宿小六年 竹市大祐

- ◆JOC第26回全国小学生相撲優勝大会東海大会
三位 竜美丘小六年 上條深能

- ◆第35回東海中学校総合体育大会
バレーボール男子

- 三位 矢作中学校
◆第80回NHK全国音楽コンクール東海北陸ブロックコンクール
金賞 三島小学校

- ◆第34回愛知県ジュニアオリピック陸上競技大会
男子A三〇〇M
優勝 翔南中三年 山下和希

- 男子A一〇〇M
優勝 矢作中三年 白藤聖陽
女子B一〇〇M
優勝 六善北中二年 山本里菜

- 女子A走高跳
二位 城北中三年 浅井さくら
(以上四名全国大会出場決定)
◆第46回愛知県剣道段別選手権
男子中学初段の部
優勝 矢作北中三年 片神明信

- ◆平成25年度愛知県小学生バンドフェスティバル
金賞 大樹寺小学校

- ◆平成25年度CBCこども音楽コンクール(県予選)
合唱の部
優秀賞
梅園小学校 根石小学校
三島小学校 矢作東小学校
竜海中学校 六ツ美北中学校
器楽の部
優秀賞 城北中学校

- (七校とも中部日本決勝大会に出場)

・カ
ツ
ト
常磐東小 杉浦 真由子

総体に向けての応援練習 (昭和59年)

写真提供：新香山中学校

今年で開校三十周年を迎えた本校は、昭和五十九年四月四日に、十四学級、六〇〇名の生徒と二十五名の教職員で開校した。開校当時は、制服、体操服がまだ定められておらず、さらに校歌もできていなかった。写真は、当時の岡崎中学校総合体育大会に向けての応援の練習風景である。香山中、岩津中、細川小、奥殿小のそれぞれの体操服や制服で練習をしている。応援団は、美術部、理科部、英語部、家庭科部の生徒たちがリーダーとなって活躍していた。練習場所は、現在の体育館が建設される前の空地で、貴重な一枚である。

学校行事で生徒を育て、学校の伝統を受け継ぐ思いは、これからも続いていく。



霜月や 日まぜにしくて 冬籠
 向井去来

猛暑の年の木枯らしは、ひとしお身にしみる。立冬を迎えると、日に日没時間が早まり、家にこもる時間が延びる。その分、一家団欒だんらんの温かい時間も長くなるのだらう。

シ オ ス ア

安全面は大丈夫か。時間的に無理はないか。下見をもとに、様々な場面を考慮して、綿密に作り上げられる修学旅行の計画。定められたコースを回るだけでなく、工夫された魅力的な修学旅行が増えている。「あつという間の二日間だったよ」。

修学旅行を終え、満足げな子供の笑顔を見るのが教師の無上の喜びである。

ススキの穂が揺れる夕暮れの堤防で、ひた向きに走る小学生を見た。

その後ろには、我が子を見守り、自転車で伴走する母の姿があった。「頑張れ」という言葉だけでなく、最後まで見届けてくれる人がいたら、もっと頑張れる。親の応援にはかなわないだろうが、そんな応援のできる教師でありたい。

多くの若者が、修行の厳しさや家業を守る重責を嫌い、日本の伝統の技は後継者不足であると聞く。そんな中、八代目を継ぐことを自然な気持ちで受け止め、自分で決めたという酒造りの匠は、自らの苦労も多くは語らない。背筋を伸ばし、朗らかに話してくださる姿は、酒造場の裏山に湧き出る清々しい水を思わせた。



*先生！ 池上 彰 編
 岩波新書 ￥861

この一文

今、先生や学校ばかりが叱られて、学校教育に対して好き勝手を言っている人たちはなぜ叱られずに済んでいるのだらう、と悔しく思っているのです。

教育関係者から普段教育を論じることがなさそうな人をも含めた27名が、先生に関するエピソードを寄せている。先生との思い出を綴る人、いかに先生に恵まれなかったかを語る人、現場教師から見た今の教育など、切り口は様々だが、根底には一様に先生に対するエールが流れている。我々に視野の広さと懐の深さがいかに大切かを再確認させてくれる一冊である。

*教場 長岡 弘樹 ￥1,575
 小学館
 *わたしをみつけて 中脇 初枝 ￥1,470
 ポプラ社
 *歴史を考えるヒント 網野 善彦 ￥452
 新潮社 三島小 山田 一夫